

景気観測(LOBO)

《2021. 10~12月》

令和3年度 第3四半期

日立商工会議所
情報化委員会

I. 調査概要について

(1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7, 10, 1, 4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

(2) 調査対象並びに回収状況

業 種	調査対象件数	回収件数	回収割合(%)
製 造 業	25	23	92.0%
小 売 業	30	22	73.0%
建 設 業	20	17	85.0%
サービス業	25	18	72.0%
計	100	80	80.0%

(3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項、売上高の推移と変化要因 採算・仕入/販売単価・従業員数・資金繰りの変化状況
調査方法	FAX・インターネット活用

(4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしよNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

◎LOBOとは「CCI(Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称。

◎DI値(景気判断指数)について

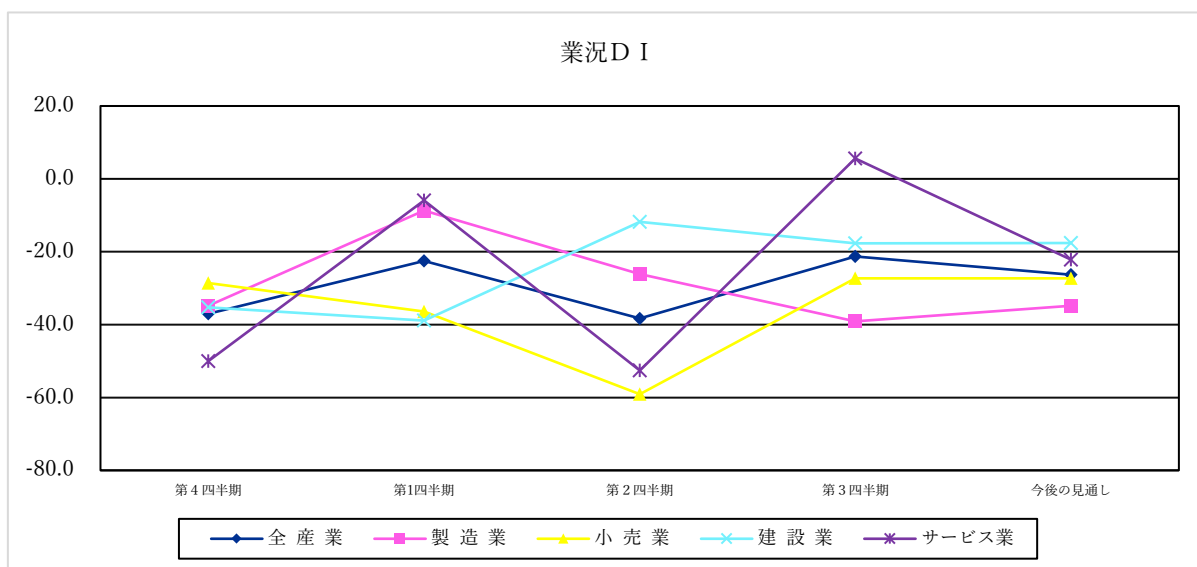
- ・DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(▲で下向き)
- ・強気、弱気等景況感の相対的な広がりを意味する。
- ・ $DI = (\text{増加} \cdot \text{好転} \cdot \text{不足等の回答割合}) - (\text{減少} \cdot \text{悪化} \cdot \text{過剰等の回答割合})$

II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲21.3と前回調査時(▲38.3)より17ポイントの回復。今後の見通しでは▲26.3(前回調査時▲25.9)と0.4ポイントの悪化。
- 製造業では、▲39.1ポイントと前回調査時(▲26.1)より13ポイントの悪化。今後の見通しは、▲34.8(前回調査時▲17.4)で▲17.4の悪化。
- 小売業では、▲27.3と前回調査時(▲59.1)より31.8ポイントの回復。今後の見通しは▲27.3(前回調査時▲45.5)と18.2ポイントの回復。
- 建設業では、▲17.7と前回調査時(▲11.8)より5.9ポイントの悪化。今後の見通しは▲17.6と前回調査時(▲11.8)より5.8ポイントの悪化。
- サービス業では、5.6と前回調査時(▲52.6)から58.2ポイント回復。今後の見通しは▲22.2と前回調査時(▲26.3)より4.1ポイント回復。

(1)業況DIの推移とキーワード

	令和2年度	令和3年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	▲ 37.0	▲ 22.5	▲ 38.3	▲ 21.3	▲ 26.3
製造業	▲ 34.8	▲ 8.7	▲ 26.1	▲ 39.1	▲ 34.8
小売業	▲ 28.6	▲ 36.4	▲ 59.1	▲ 27.3	▲ 27.3
建設業	▲ 35.3	▲ 38.9	▲ 11.8	▲ 17.7	▲ 17.6
サービス業	▲ 50.0	▲ 5.9	▲ 52.6	5.6	▲ 22.2



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製造業	材料費高騰	半導体不足	カーボンニュートラル
小売業	価格転嫁	仕入単価上昇	最低賃金上昇
建設業	工期遅延	ウッドショック	インボイス制度
サービス業	仕入価格上昇	第6波	Go to EAT、トラベル

《全国との比較》

	令和3年度第3四半期		今後の見通し(1月~3月)	
	全国(12月)	日立	全国	日立
全産業	▲15.8	▲21.3	▲18.0	▲26.3
製造業	▲9.3	▲39.1	▲14.9	▲34.8
小売業	▲30.0	▲27.3	▲25.1	▲27.3
建設業	▲16.3	▲17.7	▲17.8	▲17.6
サービス業	▲12.5	5.6	▲14.9	▲22.2

(2)売上高・採算・仕入単価・販売単価・従業員数・資金繰りの推移(DI値)

(売上高)

	令和2年度	令和3年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	▲ 27.2	▲ 15.0	▲ 38.3	▲ 15.0	▲ 22.5
製造業	▲ 8.7	▲ 4.4	▲ 13.1	▲ 39.1	▲ 30.4
小売業	▲ 33.3	▲ 13.6	▲ 54.6	▲ 27.3	▲ 22.7
建設業	▲ 23.5	▲ 27.8	▲ 47.1	▲ 17.7	▲ 29.4
サービス業	▲ 45.0	▲ 17.7	▲ 42.1	33.3	▲ 5.6

(採算)

	令和2年度	令和3年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	▲ 34.6	▲ 26.3	▲ 48.2	▲ 32.5	▲ 41.3
製造業	▲ 34.8	▲ 21.7	▲ 21.7	▲ 52.2	▲ 47.8
小売業	▲ 38.1	▲ 31.8	▲ 68.2	▲ 45.5	▲ 40.9
建設業	▲ 17.7	▲ 33.3	▲ 58.8	▲ 23.5	▲ 47.1
サービス業	▲ 45.0	▲ 17.7	▲ 47.4	0.0	▲ 27.8

(仕入単価)

	令和2年度	令和3年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	▲ 43.2	▲ 46.3	▲ 50.6	▲ 70.0	▲ 63.8
製造業	▲ 52.2	▲ 43.5	▲ 43.5	▲ 73.9	▲ 56.5
小売業	▲ 47.6	▲ 40.9	▲ 54.5	▲ 54.5	▲ 68.2
建設業	▲ 41.2	▲ 55.6	▲ 64.7	▲ 82.4	▲ 82.4
サービス業	▲ 30.0	▲ 47.1	▲ 42.1	▲ 72.2	▲ 50.0

(販売単価)

	令和2年度	令和3年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	▲ 2.5	2.5	▲ 1.2	20.0	17.5
製造業	8.7	13.0	8.7	21.7	0.0
小売業	0.0	▲ 9.1	0.0	31.8	40.9
建設業	▲ 11.8	0.0	5.9	11.8	11.8
サービス業	▲ 10.0	5.9	▲ 21.1	11.1	5.6

(従業員数)

	令和2年度	令和3年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	4.9	2.5	2.5	15.0	17.5
製造業	▲ 4.3	▲ 8.7	▲ 4.4	▲ 13.1	▲ 4.4
小売業	14.3	9.1	▲ 4.5	9.1	9.1
建設業	5.9	22.2	5.9	41.2	52.9
サービス業	5.0	▲ 11.8	15.8	33.3	22.2

(資金繰り)

	令和2年度	令和3年度			
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	今後の見通し (1~3月)
全産業	▲ 22.2	▲ 23.8	▲ 24.7	▲ 20.0	▲ 22.5
製造業	▲ 13.1	▲ 21.7	▲ 13.0	▲ 21.7	▲ 26.1
小売業	▲ 42.9	▲ 31.8	▲ 40.9	▲ 40.9	▲ 36.4
建設業	0.0	▲ 22.2	▲ 11.8	0.0	▲ 11.8
サービス業	▲ 30.0	▲ 17.6	▲ 31.6	▲ 11.1	▲ 11.1

(3)業種別概況

業種	概況
製造業	<p>業況感は引き続き、悪化傾向。材料費の高騰及び入手困難の報告が多数あり、生産に影響が出ている。特に半導体は、全国的には不足の影響が緩和されつつあり回復しているが、当地区ではいまだ調達不足により売上減少となっている。一方で取引先からの原価低減要請の報告も。</p> <p>個別では「車のEV化が加速。自動車部品不足の為にメーカーが減産している影響が大きい(輸送用機械器具製造業)」「コロナ禍によるインフラ関連投資の縮小等により受注が減少している(電気機器製造業)」「仕入単価UPと製品価格UPの差が大きい(銑鉄鋳物製造業)」「各材料の仕入れ単価が値上がりし販売単価に転嫁できず苦慮している(印刷業)」「薬品の値上がり数が数件出てきている。中国の電力制限、操業規制が原因かと(金属加工業)」「イベントや総会等の中止で印刷物の減少が続いている。デジタル化で印刷物への需要が減少、競争激化により価格が下落している。この状況下で業界内ではWebやSNSとリンクして業績を上げているところもある(印刷業)」「大型建設機械部品が継続受注していること、原子力建屋に関係している製缶品、水力関係も受注があり、向こう3カ月は微増(電気機械器具製造業)」などの報告があった。</p>

小 売 業	<p>今期業況感は、自動車・自動二輪小売業等一部堅調な業界が押し上げて回復しているものの、全体としてはいまだ売上減少の事業所が多い。また仕入価格の上昇や、物流遅延により商品が品薄、欠品となっているだけでなく、包装資材・公共料金・従業員の交通費、最低賃金等多くのコストが上昇しているとの報告も。</p> <p>個別では「原材料・最低賃金などの値上げが販売価格にすべて反映できていない。年明け後の値上げの案内も来ている。国内業界全体で一斉値上などを実施してほしい(菓子製造業)」「総従業員 3/4 が時給の為、10/1 からの最低賃金アップも経費負担の要因。人員不足だが、『エリアジョブ(複数エリアを担当)』『マルチジョブ(複数部門の兼任)』という働き方で何とか現有労働力でギリギリの店舗運営を続けている。反面、生活のライフラインを担う仕事として、興味関心を持ってくれる学生も増え、新卒採用はコロナ前まで回復(食品スーパー)」「原油動向も先高で仕入れ価格は上昇するが、市況は厳しく収益を圧迫している。中国から尿素の輸入が止まり、アドブルーの欠品が続き混迷している。アメリカからの潤滑油の添加剤の入荷が少なく欠品商品が続いている(燃料小売業)」「年末から来年春先にかけて、タイヤ・オイルなどの値上げが決まっている。来年春以降の見通し・予測が不明なため、原材料の不足が続けば、来年の売り上げは落ち込むことが予想される(自動車販売業)」「高額車が好調(自動車販売業)」などの報告があった。</p>
建 設 業	<p>売上、採算等で回復を見たものの業況感は悪化。建築資材の仕入価格上昇の報告が多く8割を超える。人材や資材不足により工期の遅れなどの声も。全国の業種別動向では、木材等の資材価格上昇や東南アジアでの感染拡大に伴う給湯器をはじめとした住宅設備機器の納品遅れ、欠品の影響が続くものの、公共工事(災害復旧)・民間工事(住宅)の持ち直しが下支えし改善している。</p> <p>個別では、「国土交通省の防災・減災および道路改良工事の見積もり・入札が続く。民間建築工事は物件が少なく、かつ発注単価が厳しい。ウッドショック、鋼材価格上昇、住設機器の納入遅延、作業員不足等、仕入単価が高騰し、高止まりしている。設備の不備や用地未買収などにより工事の未着工や遅延が発生し、担当技術者が当初工期どおりに竣工できず技術者不足となっている(総合建設業)」「価格の低廉化がみられる(総合建設業)」「公共工事の発注件数が減少している。作業員の高齢化が進んでおり、若者に建設業への興味を持ってもらいたい。(総合建設業)」「交通誘導員不足及び単価上昇により予定どおりの工程で進まない。経費増により採算にも響いてくる(総合建設業)」などの報告があった。</p>
サービス業	<p>比較的コロナウイルスが抑制された期間となり、飲食業や運輸業で堅調な事業所が押し上げて業況感は大幅に回復。しかし 7 割超の事業所で材料費等仕入価格上昇の報告があるものの、販売価格へ転嫁できた事業所は1割程度であり、厳しい状況が伺える。今後についても変異株蔓延への不安から、先行は悪化を見込む。</p> <p>個別では、「交通についてはコロナウイルス感染が抑制されていることから徐々に回復の兆しはあるが、オミクロン株の拡大が懸念されている中で予断を許さない状況が続いている。運輸については年末～年明け後、年度末に向けた輸送物量増により繁忙となることが予想されるが、ドライバー不足と燃料価格が高止まりしている状況にあり、収</p>

	<p>益面での伸びは期待できない状況である。(物流業)」「運送業界は、軽油高騰・働き方改革による残業制限、ドライバー不足、車両購入費用の上昇に対して荷主への運賃値上げの要求が認められず経営環境は厳しい(物流業)」「経営者の高齢化が進んでいる(理容業)」「稼働台数と仕事量が比例している。今後経済活動が戻り始めたときに、人材不足は深刻(一般乗用旅客自動車運送業)」等の報告があった。</p>
--	--